まえてつ通信 4th
NO. 013　2024(R6).3.11（月）

予算総括質疑を行いました

3月4日に予算総括質疑を60分行いました。お蔭様で翌日の新聞記事に。当日はひどい鼻炎と腹痛でしたが…体調が悪い方が気負わず良い質疑ができたようです（苦笑）。

【質問項目】

1 令和6年度当初予算について
　(1)一般財源総額の確保等
　(2)基金事業・ふるさと納税の活用

2 ビジョン特別事業の推進について
　(1)ビジョン特別事業の推進
　(2)交流・イノベーション分野における産業化の視点
　(3)食分野における賑わいの創出

3 重点事業について
　(1)西九州新幹線予算
　(2)国境離島新法による成果と今後の取り組み

4 産業振興における市町との連携予算について
　（長崎市を事例に）

5 教育施策ならびに新規事業予算について
　(1)不登校対策予算
　(2)医療的ケア児支援予算
　(3)県立高校の入試制度の変更

◆ **地域医療介護総合確保基金**は、官民からの事業提案を両者からなるワーキンググループで審査し事業を決定～実施。同じスキームで**県独自の「こども子育て基金」**を設置し、民間提案のソフト事業を積極的に展開できないか質疑。**「検討する」との前向きな答弁**。

◆ **長崎の美味しい食を買える・味わえる**拠点創出を目指す方向性が示されたので、**「旭大橋下周辺の県有地の活用」を提案**。「民間活力の活用を視野に入れた中期的な活用方法の検討を進め、**早期の方針決定を目指す**」との答弁。**お魚（野菜）＆屋台村実現へ一歩前進。**

知事 佐賀駅経由「尊重すべき」

新幹線長崎ルート

県議会

他ルートも想定の疑念持たれ弁明

九州新幹線長崎ルート未着工区間（新鳥栖―武雄温泉）の整備方式で、本県の歴代知事が主張してきた佐賀駅経由ルートについて、大石賢吾知事が他のルートも想定しているのではないかと関係者に疑念を持たれている。定例会見での発言が発端となっており、4日の県議会予算決算委員会でこの点をただされた知事は、駅経由を「尊重すべき」と弁明した。

駅経由は、国やJR九州が最適とする一方、佐賀県は拒否し、佐賀空港などと連携する新たなルートを「議論する価値がある」と主張している。

1月の会見で、駅経由へのこだわりを問われた知事は、駅経由が有利とされる利便性や採算性を重視する姿勢を示しつつ「いろんな観点がある」「佐賀県の事情もある」などと答えた。これを受け、他のルートを想定する可能性もあると一部報道があった。

同委員会の総括質疑で、前田哲也委員（自民）は「（会見の）表現の仕方によって誤解を生み、報道された」と強調。これに対し知事は「利便性や持続可能性は重要。与党検討委員会やJR九州が（駅を通る）アセスルートを最適としていることは尊重すべきと考えている」と答えた。

前田委員は、新たなルートについて「向こう（佐賀県）が言うような土俵には乗らない形できちんと対応してほしい」とくぎを刺し、「新幹線に絞り佐賀県知事と奇譚なく意見を交わす場面が必要だ」と求めた。知事は「どういう形で意見交換をするかも知恵を絞り、全線フル規格整備の実現に向けて全力で取り組む」と述べた。（田下寛明）

3月5日
長崎新聞より

発行：前田哲也 〒852-8023 長崎市若草町14-11　TEL095-840-9020　【HP】maetetsu.jp　FB【前田哲也】
※まえてつ通信はご支援頂いている方にお送りしています。メール配信（カラ-PDF）へ変更ご希望の方、配信停止ご希望の方はご連絡ください。